

2020年度 自己評価の結果について

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 旭川みその幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、1.神に作られて愛されている人間として、心身の調和的発達を図りながら、日常生活の基本的習慣を身につけ、2.集団生活の諸経験の中で、神と人とを愛する心、信頼する心を養い、それを自発的に行動で表せるように導き、3.身辺の自然の事象が神のみわざであることを知り、その恵みに感謝し、全てのを大切にすることを育て、4.人々との関わりや祈りによる神との語らいの中で、自分の意志を表示することば『聞く・話す・考える』力を養い、5.一人ひとりが、神さまから与えられた力を十分に発揮し、楽しんで表現活動に参加できるように導き、6.神の恵みに導かれながら、自発的に善を行う強い意志が芽生えるように導く幼児教育を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園の教育課程の内容を確認し、職員会議・研修などを通して教職員の共通理解を図り、教育の質を高める。自己点検・評価を実施することによって教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善、施設の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。また保護者とのコミュニケーションを深めニーズを確認することで、地域に根ざした魅力のある幼稚園を目指していく。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	カトリックの教えを基礎とした園の教育理念や目標の共通理解を深める研修、話し合いをしているが、今後も園内研修などを実施してさらに話し合う機会を多くしていく必要がある。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	新型コロナウイルス感染対策や避難訓練など安全管理の面では施設・環境・指導に留意してきた。教職員全員の共通理解のもと園児一人ひとりを大切に見守り、情報や意見の交換を十分しながら保育を行った。 預かり保育・未就園児の親子教室の実施などの子育て支援を行った。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	保育者としての意識・自覚・責任を常に持つように心がけ、園児一人ひとりの成長に喜びを感じ使命感を持って保育に携わった。研修参加や実践を行う中で資質の向上を目指す努力を行ったが、幼稚園教諭として必要な多面的なスキルを持った教員を目指すためには、さらに自己研鑽をしていく必要がある。
4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。	個人懇談やクラス懇談、通信文、また必要な時は個々に連絡を取るなど、子どもの様子をできるだけ保護者に伝えるよう努めた。また、保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者からの相談や要望については、園長はじめ教職員全体で相談・対応を図るよう心掛けたが、相手の立場に立った目線での対応が不十分なときがあり、これからさらに真摯な対応を図る努力が必要である。
5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。	コロナ禍により、勤労感謝訪問を縮小したり、作品展で地域の方の参加をご遠慮頂いたなど地域社会との関わりを深める機会を持つことが難しかった。このような状況下で、小学校の学校便りなどにより、小学校の教育活動の理解に努め、また、園開放事業「ひだまり」や課外体操教室に地域の方々にご参加頂いた。

6 研修と研究 研修・研究を積極的にを行い、専門性を高める努力をする。	コロナ禍のもとで、従前行われていた多くの研修会が中止となり、研修を受ける機会が乏しくなったが、今後はオンライン研修の機会が増えると予想されるので、園内研修の充実とあわせ積極的に参加していきたい。
7 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。	園だより、お部屋便り、ホームページなどを通して、園の教育方針や活動の様子などを積極的に公開するよう努めた。ホームページについては、新たにスペシャルサイトを立ち上げたが、保護者以外の方にも園の情報を伝える有効な手段なので、さらに充実と工夫を図っていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍の下で様々な制約があったが、園の特色として、少人数ならではの全体活動や異年齢活動の取り組み、季節や自然・生活・社会などとの関わりを実際に見て触って聞く体験などがあり、幼児の実態を踏まえた指導計画のもと、教職員が共通理解、自己評価をしながら取り組む事ができた。保護者とのコミュニケーションを深めニーズを確認する努力をしてきたが、すべてに答えることや全員に同じように関わることは難しく、広い視野やゆったりとした関わり方などの工夫や見直しが必要である。これからも自己評価により見えてきた園としての課題・個人の課題にさらに取り組んでいきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	安全管理については充分意識して取り組んだが、施設面での対応と教職員の意識づけを図りたい。新型コロナウイルス感染症については「新しい生活様式」を取り入れた感染対策を徹底していく。また災害時の対応については、避難訓練後などに反省の機会を持ち、そこで出てきた問題点などを見直し、常に園児の安全確保を図ることができるようにしていきたい。
指導計画の編成	園を取り巻く環境や子どもの実態に即した指導計画の編成に取り組み、その中に園の特色・独自性がはっきり現れるようにして行きたい。また、キリスト教の精神と理念に基づいている幼稚園として、宗教教育の指導計画の充実を図りたい。
園に対する保護者の満足度の把握	本学園の建学の精神を中心とし、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、改善向上に努めていきたい。

6. 学校関係者の評価(保護者の皆様より:・とても良い・良い・あまり良くない・良くない、の4段階評価)

- 1.保育の計画性 : とても良い18・良い10 2.保育のあり方・幼児への対応:とても良い16・良い12
3.保育者としての資質と能力:・とても良い19・良い9 4.保護者への対応:とても良い15・良い12・わからない1
5.地域の自然や社会とのかかわり:・とても良い10・良い11・わからない7
6.研究と研修:とても良い1・良い8・わからない9

総体的には、「とても良い」と「良い」との評価を多数いただいたが、「5地域の自然や社会とのかかわり」及び「6研究と研修」については「わからない」という評価が比較的多かった。地域との関わりや研修等について保護者の皆様に発信し、理解を深めていただく努力が必要と感じた。

その他の意見・要望としては、バス送迎の際の挨拶についての要望、卒園式に在園児が出席出来なかったことについての意見などがあつた。コロナ禍の下で行事等には制約があるが、皆様からの貴重な声をふまえて、来年度も検討・見直しなどをして魅力的な幼稚園づくりを目指していきたい。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。